

C-85 男性の家庭着に関する研究(第3報)新春の男性のきものについて
大阪女子学園短大 〇川上公代 増田依子

目的 第1報において男性の家庭着の実態調査の結果、夏期家庭着としてゆかたが
案外多く着用されていることを知った。今回は47年、48年の2年間にはわたり新春のき
もの調査を実施し、きもの着用状況ときものに対する着用者の意識を検討したので
その結果を報告する。

方法 大阪女子学園短大父兄(約400名)を対象に47年48年1月中旬実施した。
調査用紙を学生に配布し家庭内の20才以上の男性にその回答を依頼し、1週間後に回
収した。つづいて集計し項目毎に検討し、最後にSD法によってイメージを調べた。

結果 ①きもの着用状況と今後の要求度

約70%が家庭で和服を着用していた。ゆかたりとくつろげることからこの理由
で約80%は今後の着用を希望している。

②きもの種類は、2年間同じ傾向に現れ、ウールアンサンブル>ウール前
>ウールの順。調査地域の各データは同じ傾向にあることが、メスル分割
表により明らかとなった。

その他、材質、色合、下着、付属品、調製方法等の項目では大体予想通りであったが
案外なものもあった。イメージでは「上品な」「センスのある」「静かな」とのイメー
ジが若年代を過してこたわっているが、反面「奢侈で」「茶干」「面倒で」「不合理な」も
のとされている。後者は比較的若い層に多いが、これは使用頻度のためであろう。レ
カレきものに対する要求度が強いことから今後のきもの着用はつづけるかと思